

日本環境学会 第45回研究発表会 プログラム (概要)

1. 開催日時：2019年6月22日(土)、6月23日(日)、6月24日(月、エクスカージョンの予定)

2. 会場：横浜国立大学経済学部講義棟1号館・2号館(6月22日、6月23日)

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1

交通機関・会場アクセス

<http://www.ynu.ac.jp/access/index.html>

キャンパスマップ(2.55 MB)

http://www.ynu.ac.jp/access/pdf/YNU_MAP_J.pdf

経済学部講義棟1号館・2号館は、N4-2およびN4-3です。



3. 費用

①参加費(予稿集代含む、以下、5月11日(土)以降に振込・当日支払いの場合)

一般・シニア会員：6,000円、学生会員：4,000円、非会員：7,000円

②予稿集代：2,000円(追加購入または参加せずに予稿集だけ購入の場合は、印刷部数が限られているため、ご希望をあらかじめお知らせください)

③懇親会費：一般・シニア会員5,000円、学生3,000円(当日申し込みは1,000円増し)

④昼食(弁当)代(土曜日、日曜日)：1食1,000円。希望される方は、参加費等とともに6月14日(金)までに振込をお願いします(学内の食堂は、土日には営業していません。会場周辺には飲食店やコンビニエンスストアがあります。当日に周辺地図を配付します)。

4. 参加申し込みについて

①事前参加申し込み：前号に同封の振込用紙によるお支払いをもって、参加の申し込みといたします(振込手数料はご負担願います)。

②当日参加申し込み：会場にて受け付けます。

※領収書ご希望の方は当日受付にてお申し出ください。

※参加費を納入されて研究発表会を欠席された場合は、納入された参加費の払い戻しはいたしません。予稿集はお送りいたします。

5. 第45回研究発表会実行委員会

実行委員：尾崎宏和(国立環境研究所)

：佐藤輝(フェリス女学院大学)

：知足章宏(フェリス女学院大学)

：渡未 絢(一般財団法人日本品質保証機構)

実行委員長・事務局：氏川恵次(横浜国立大学)

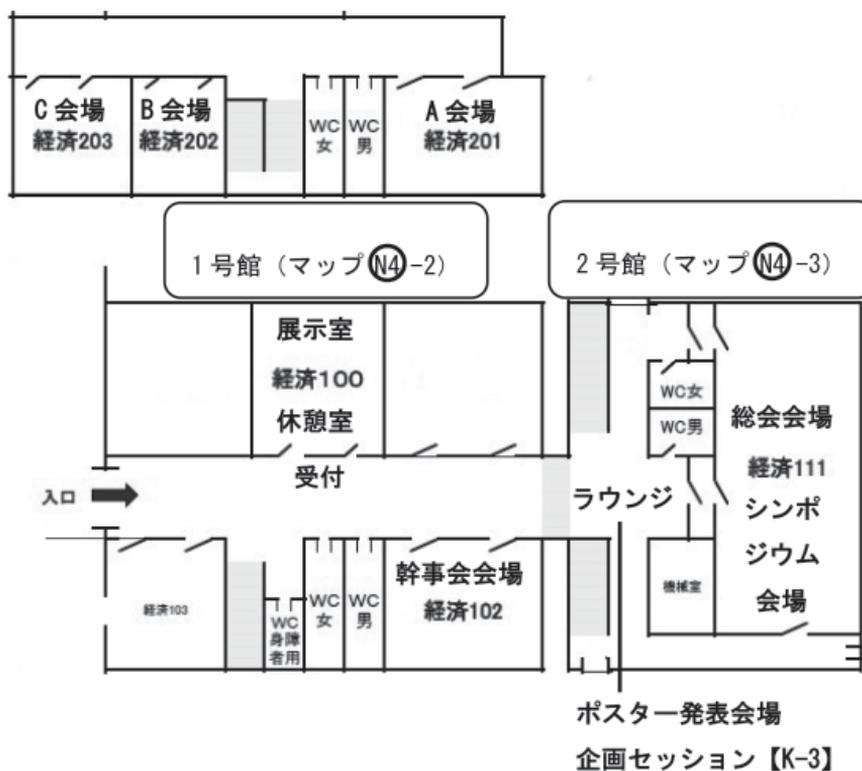
〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1

横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 氏川研究室

TEL：045-339-3538

E-mail：jaes2019@jaes.sakura.ne.jp

会場配置図（経済学部講義棟1号館・2号館）



<1日目・2日目共通>

- 受付 (1号館1階 * 100教室前)
- 展示室・休憩室 (1号館1階 100教室)
- A会場 (1号館2階 201教室)
- B会場 (1号館2階 202教室)
- C会場 (1号館2階 203教室)
- ポスター発表会場 (2号館1階ラウンジ) * 2日目の昼にコアタイム
- 幹事会会場 (1号館1階 102教室)

<1日目のみ>

- 総会会場 (2号館1階 111教室)
- シンポジウム会場 (2号館1階 111教室)
- 懇親会会場 (第1食堂「れんが館」 * 別棟)

<2日目のみ>

- 企画セッション
- 【K-1】 (1号館2階 201教室)
- 【K-2】 (1号館2階 202教室)
- 【K-3】 (2号館1階ラウンジ)

全体プログラム

※報告者の発表日時、演題などについては、「一般報告プログラム」をご確認下さい。

■ 1日目 6月22日(土) 受付9:00~

※【 】内は発表番号

時間	A会場 (201教室)	B会場 (202教室)	C会場 (203教室)
	エネルギー①	環境経済・環境政策①/ 自由論題①	環境教育・環境哲学①/ 土壌・水質①/自由論題②
9:30	【A-1】	【B-1】	【C-1】
9:45	【A-2】	【B-2】	【C-2】
10:00	【A-3】	【B-3】	【C-3】
10:15	【A-4】	【B-4】	【C-4】
10:30	【A-5】	【B-5】	【C-5】
10:45	休憩 (15分)		
	エネルギー②	環境経済・環境政策②	市民科学
11:00	【A-6】	【B-6】	【C-6】
11:15	【A-7】	【B-7】	【C-7】
11:30	【A-8】	【B-8】	【C-8】
11:45	【A-9】	【B-9】	【C-9】
12:00 13:15	休憩・昼食 休憩中に「旧年度」幹事会 (102教室)		
13:15 14:15	総会 (2号館111教室)		
14:15	休憩 (15分)		
14:30 17:45	シンポジウム (2号館111教室)		
18:00 20:00	懇親会 (第1食堂「れんが館」)		

時間	A会場 (201教室)	B会場 (202教室)	C会場 (203教室)
	環境教育・環境哲学②	廃棄物・都市問題①／環境情報／生態系・生物多様性	廃棄物・都市問題②／大気汚染
9:00	【A-10】	【B-10】	【C-10】
9:15	【A-11】	【B-11】	【C-11】
9:30	【A-12】	【B-12】	【C-12】
9:45	【A-13】	【B-13】	【C-13】
10:00	【A-14】	【B-14】	【C-14】
10:15	【A-15】	【B-15】	【C-15】
10:30	休憩 (15分)		
	震災・災害／環境経済・環境政策③／自由論題③	地球環境②／土壌・水質②／自由論題④	環境教育・環境哲学③／自由論題⑤
10:45	【A-16】	【B-16】	【C-16】
11:00	【A-17】	【B-17】	【C-17】
11:15	【A-18】	【B-18】	【C-18】
11:30	【A-19】	【B-19】	【C-19】
11:45	【A-20】	【B-20】	【C-20】
12:00	【A-21】	【B-21】	【C-21】
12:15 13:15	ポスター発表【P-1, P-2, P-3, P-4, P-5, P-6】(2号館ラウンジ) 休憩・昼食 休憩中に「新年度」幹事会 (102教室)		
13:15 15:15	企画セッション【K-1】	企画セッション【K-2】 ※若手 13:15-14:35	D会場 企画セッション【K-3】 (2号館ラウンジ)

日本環境学会第45回研究発表会 公開シンポジウム

「SDGs・地球温暖化対策にたいするパートナーシップのあり方」

神奈川県内では横浜市の他に、県、鎌倉市が「SDGs（持続可能な開発目標）未来都市」に選ばれています。まず、従来の国際環境政治における Sustainable Development の考え方が、いかにSDGsに結実しているのかが問われます。横浜市温暖化対策の計画では、従来の地球温暖化対策実行計画と環境未来都市の考え方が、SDG未来都市の考え方にどのように反映されているのでしょうか。

また、SDGsは国内の企業、行政、教育機関・学術団体という各主体の活動にどのような影響をおよぼすのかを明らかにする必要があります。例えば、各企業は、SDGsへの対応を進めていますが、従来のCSR等との違いはどのような点であって、SDGsになぜ積極的に取り組む必要があるのでしょうか。

さらに、市民はどのように関わることができるのかが問われます。「Zero Carbon Yokohama」およびSDGsの実現に向けて、同じような問題意識を持った人々をつなげて、例えば大学生をはじめ若い世代と共に、社会的なイノベーションを起こしていくには、どのようにしたらよいのでしょうか。SDGs未来都市の仕組みづくりでは、脱炭素・まちづくりといった取組について、各主体の連携のあり方が重要になってきます。

本シンポジウムでは、SDGsと地球温暖化対策に焦点を絞って、こうしたテーマに様々な立場で取り組んでいる方々と共に、これからの日本および地域における持続可能な社会づくりのよりよい進め方を考えます。

日時：2019年6月22日（土）14：30～17：45

場所：横浜国立大学経済学部講義棟2号館111教室

<プログラム> *プログラムの内容は、今後、変更する可能性があるのでご了承ください。

14：30～16：35 講演

講演者（敬称略、予定）：

奥野修平（横浜市温暖化対策統括本部）

大川哲郎（大川印刷）

河原勇輝（太陽住建）

原科幸彦（千葉商科大学）

佐藤一子（横浜市地球温暖化対策推進協議会）

（休憩、参加者による質問用紙への記入）

16：50～17：45 総合討論

パネリスト： 上記講演者

モデレーター：氏川恵次（横浜国立大学）

一般報告プログラム（連名の場合、○印が報告者）

1日目 6月22日（土）

< A会場：201 教室 >

【座長：木原浩貴】

- 09：30 A-1 IPCC 1.5℃特別報告書に基づく地域カーボンバジェットの算出と考察
○近江貴治（中村学園大学）・歌川学（産業技術総合研究所）・上園昌武（島根大学）・
氏川恵次（横浜国立大学）・塩飽敏史（水島地域環境再生財団）
- 09：45 A-2 気温上昇 1.5℃未満カーボンバジェットを考慮した日本のCO₂排出削減経路
○歌川学（産総研）・上園昌武（島根大学）・氏川恵次（横浜国立大学）・
近江貴治（中村学園大学）・塩飽敏史（水島地域環境再生財団）・外岡豊（元埼玉大学）
- 10：00 A-3 気温上昇 1.5℃未満カーボンバジェットを考慮した地域CO₂排出削減経路工業県と中規模都市の検討
○歌川学（産総研）・上園昌武（島根大学）・氏川恵次（横浜国立大学）・
近江貴治（中村学園大学）・塩飽敏史（水島地域環境再生財団）・外岡豊（元埼玉大学）
- 10：15 A-4 環境NGOと自治体の低炭素町作りを目的としたパートナーシップ協定、その意義と課題
佐藤高晴（元・広島大学総合科学部）
- 10：30 A-5 高再エネ率に向けた電気自動車による自然変動電力調整の可能性と課題
佐藤高晴（元・広島大学総合科学部）

【座長：佐藤高晴】

- 11：00 A-6 変動性電源大量導入による東日本の電力需給バランス、再エネ2030年50%目標の検証
○竹濱朝美（立命館大学）・歌川学（産業技術総合研究所）
- 11：15 A-7 FIT下でのバイオマス発電の現状と課題～小規模木質発電を中心に～
○和田武（和歌山大学経済学部）・和田幸子（元・神戸外国語大学）
- 11：30 A-8 インドにおける再生可能エネルギー利用の新段階
○和田幸子（元・神戸外国語大学）・和田武（和歌山大学経済学部）
- 11：45 A-9 タイにおける持続可能な住まいと居場所の特質について
○王陳ロウ（九州大学芸術工学府）・
近藤加代子・包清博之・井上朝雄（九州大学芸術工学研究院）・
Dmthajit Pansri (Naresuan university)・Artit Chutchaiopolrut・
Sujitra Arampongpun (College of Asian Scholars)・畢亦凡（九州大学芸術工学府）

< B会場：202 教室 >

【座長：北川秀樹】

- 09：30 B-1 イタリアの農村ツーリズムにおける2000年以降の地域毎の推進状況と人口増減の分析
佐藤輝（フェリス女学院大学国際交流学部）
- 09：45 B-2 地球環境政策における安全保障化の考察
横田匡紀（東京理科大学理工学部）
- 10：00 B-3 人口密集域における里川像の提示～行政と連携した地域フォーラムの活用～
○望月嘉人・藤野裕弘（東海大学大学院人間環境学研究科）
- 10：15 B-4 小規模自治体における持続可能な地域づくりの推進を目的にしたローカル・シンクタンク設立に関する研究－下川町ふるさと開発振興公社クラスター推進部の事例から
平岡俊一（滋賀県立大学環境科学部）

10:30 B-5 書籍分析により「環境」の諸相を示した試行的研究

東広之（プレック研究所）

【座長：磯野弥生】

11:00 B-6 中国の環境法政策の執行と課題

北川秀樹（龍谷大学政策学部）

11:15 B-7 中国における重層的環境汚染問題と環境 NGO

知足章宏（フェリス女学院大学国際交流学部）

11:30 B-8 建設残土問題を考える 1－三重県紀北町・尾鷲市の建設残土捨場

畑明郎（元・大阪市立大学大学院）

11:45 B-9 建設残土問題を考える 2－全国の建設残土問題と土砂条例制定状況

畑明郎（元・大阪市立大学大学院）

< C会場：203 教室 >

【座長：飛田 満】

09:30 C-1 水循環に関する体験授業の事例報告～沖縄県宮古島市の小学校での実践に関して～

○鶴田怜志・藤野裕弘（東海大学大学院）・松本晃一（東海大学地域環境ネットワーク）

09:45 C-2 沖縄県宮古島市の小学校におけるごみ分別啓発の試み～効果検証を含めて～

○染谷侑・藤野裕弘（東海大学大学院人間環境学研究科）

10:00 C-3 イラン・テヘランにおけるふん便汚染の DNA マーカーを用いた由来推定の試み

○尾形恒輝・武井彩華・高田秀重・多羅尾光徳（東京農工大学）

10:15 C-4 バングラデシュの里山・里海保全の阻害要因と今後の方向性について

佐藤秀樹（江戸川大学社会学部, (公社) 日本環境教育フォーラム）

10:30 C-5 スリランカにおける小規模コーヒー農家の持続可能性－流通面からの検討

小倉亜紗美（呉工業高等専門学校）

【座長：桜井 良】

11:00 C-6 戸建て住宅敷地を対象とした雨水流出抑制評価ツールの作成と適用

横田樹広（東京都市大学環境学部）

11:15 C-7 スマホを用いた市民科学プロジェクト City Nature Challenge

○戸金大・咸泳植（東京都市大学）・

小堀洋美（東京都市大学 / (一社) 生物多様性アカデミー）

11:30 C-8 市民科学による水辺の外来植物の空間的变化の評価

○咸泳植・榮一誠・佐藤鉄馬・有賀康博・大里彩乃（東京都市大学環境学部）・

小堀洋美・戸金大（東京都市大学 / (一社) 生物多様性アカデミー）

11:45 C-9 市民科学による過去 10 年間の世田谷区の河川の水質評価

○咸泳植・佐藤鉄馬（東京都市大学環境学部）・

小堀洋美（東京都市大学 / (一社) 生物多様性アカデミー）

< A会場：201 教室 >

【座長：平岡俊一】

- 09:00 A-10 環境権は誰のものかー学生たちの Climate Strike
柿沼美穂 (国立環境研究所)
- 09:15 A-11 SDGs フォーラムの企画によるプロジェクト型 ESD の実践
飛田満 (目白大学社会学部)
- 09:30 A-12 農業高校における LCT 環境教育プログラムの開発および SDGs への適用可能性
○津野佑規 (新潟大学大学院自然科学研究科, 福井県立福井農林高等学校)・
長谷川英夫 (新潟大学自然科学系)・水島智史 (福井県立若狭東高等学校)
- 09:45 A-13 環境教育プログラムの評価における実務者と研究者との協働の可能性
桜井良 (立命館大学政策科学部)
- 10:00 A-14 アクティブラーニング手法を用いた環境・エネルギー教育の実践
～近年の原発再稼働賛否の動向と教育課題の整理～
○高野拓樹・乾明紀・加藤千恵 (京都光華女子大学キャリア形成学部)
- 10:15 A-15 インドネシアの熱帯林における「エコツーリズム実習」の実施, および参加した大学生
の反応
佐藤輝 (フェリス女学院大学国際交流学部)

【座長：歌川 学】

- 10:45 A-16 福島原発事故で発生した除染土の再生利用政策
磯野弥生 (東京経済大学)
- 11:00 A-17 気候変動対策の捉え方と脱炭素社会の受容度
○木原浩貴・松原斎樹 (京都府立大学生命環境科学研究科)
- 11:15 A-18 貨物輸送における大幅な CO₂ 排出削減対策の見通しと政策・業界の動向
近江貴治 (中村学園大学)
- 11:30 A-19 自立分散型エネルギー社会構築における地域新電力の購買意思の影響要因について
ーみやまスマートエネルギー会社を事例にー
○畢亦凡・譚喬尹・近藤加代子 (九州大学芸術工学府)
- 11:45 A-20 風力発電の自治体公営事業の経営分析ー島根県企業局の事業を事例にー
○上園昌武 (島根大学)・蘇雪雯 (元・島根大学)
- 12:00 A-21 二国間クレジット制度 (JCM) について
渡未絢 ((一財) 日本品質保証機構)

< B会場：202 教室 >

【座長：八木 正】

- 09:00 B-10 海ゴミ問題の調査研究のあり方
磯部作 (放送大学)
- 09:15 B-11 公害被害救済から環境再生への展開と課題ーイタイイタイ病全面解決の事例を中心に
関耕平 (島根大学法文学部)
- 09:30 B-12 食品循環資源から製造した堆肥は水稻栽培に利用できる
長屋祐一 (三重大学大学院生物資源学研究科)

- 09:45 B-13 農業用水管理の省力化の取組から、ICTの技術選択にはコンサルティングが重要
○長屋祐一・伊藤良栄（三重大学大学院生物資源学研究所）
- 10:00 B-14 機械学習を用いた三重県のブリ漁獲量予測モデル構築についての検討
○山田二久次・小川翔大（三重大学生物資源学部）・久野正博・藤田弘一（三重県水産研究所）・
武田保幸・御所豊穂（和歌山県水産試験場）・海野幸雄（静岡県水産技術研究所）・
万田敦昌（三重大学生物資源学部）
- 10:15 B-15 農法の比較相対化と環境評価
森谷昭一（森谷工房環境教育部）

【座長：横田樹広】

- 10:45 B-16 フダンソウの耐塩反応におけるベタシアニンの関与
○前田良之・大島宏行・加藤拓（東京農業大学農芸化学科）・
箭柏聖（株式会社 渡辺パイプ）・澁谷陽平（株式会社 誠和）
- 11:00 B-17 畑地における下水汚泥堆肥および乾燥汚泥の窒素無機化特性
○町田尚大（東京農業大学大学院）・守屋柊星（東京農業大学農芸化学科）・
後藤逸男（東京農業大学大学院，全国土の会）・
大島宏行・加藤拓（東京農業大学農芸化学科）・
前田良之（東京農業大学大学院，東京農業大学農芸化学科）
- 11:15 B-18 福島県郡山市中心部住宅地における合流式下水道流水の重金属濃度
○尾崎宏和・林誠二（国立環境研究所）・
吉村和也・片寄優二・松本卓巳（日本原子力研究開発機構）・朝岡良浩（日本大学工学部）
- 11:30 B-19 日本における2,4,5-T剤の製造・使用・廃棄について
八木正（鹿児島国際大学経済学部）
- 11:45 B-20 鹿児島県における2,4,5-T剤埋設地の状況
八木正（鹿児島国際大学経済学部）
- 12:00 B-21 松枯れ防除剤は効果があるのか
—マツグリーン液剤2の空中散布防除効果についての検討
植村振作

<C会場：203教室>

【座長：粟屋かよ子】

- 09:00 C-10 パレスチナ・ガザ地区における医療廃棄物処理
吉田充夫（(一社)国際環境協力ネットワーク）
- 09:15 C-11 市民生協でのNO₂測定と健康アンケートとの対比
久志本俊弘（公害環境測定研究会）
- 09:30 C-12 千葉県内の東京外環道路開通による二酸化窒素(NO₂)濃度の変化
○鈴木一義・石居隆行（市川の空気を調べる会）
- 09:45 C-13 公害病認定死亡患者の認定期間及び死亡原因に関する調査
神戸治夫（川崎から公害をなくす会）
- 10:00 C-14 温暖化による熱中症は、公害被害ではないのか
神戸治夫（川崎から公害をなくす会）
- 10:15 C-15 大気汚染医療費助成認定患者の地域分布傾向とその経年変化について
<複合化する光化学オキシダント公害についての考察 第三報>
○木村健一郎（杉並大気汚染測定連絡会），権上かおる（環境カウンセラー）

【座長：久志本俊弘】

- 10：45 C-16 テクノロジーの現況と量子論と近代科学の完成 I
栗屋かよ子（元・四日市大学）
- 11：00 C-17 テクノロジーの現況と量子論と近代科学の完成 II
栗屋かよ子（元・四日市大学）
- 11：15 C-18 戦争する国造りに反対するオール沖縄の闘いから見える日本発展の可能性
杉浦公昭（元・東洋大学工学部）
- 11：30 C-19 目視法 NOx 大気汚染簡易測定器を活用した温暖化防止活動の提案
天谷和夫（元・群馬大学）
- 11：45 C-20 放射線簡易測定器を活用した核兵器廃絶の早期実現のための提案
天谷和夫（元・群馬大学）
- 12：00 C-21 世界連邦政府の役割を果たす国連大学を育てる SDGs の活動
天谷和夫（元・群馬大学）

<ポスター発表> コアタイム 2日目 12：30～13：00

<2号館ラウンジ>

【座長：前田良之】

- P-1 熱分解ガスクロマトグラフィー質量分析法を用いたマイクロプラスチックの分析
○大早晃平・中國正寿（創価大学大学院工学研究科）・野尻翔太（創価大学理工学部）・
山本修一（創価大学大学院工学研究科）
- P-2 地域理解を進めるための学校周辺マップ作成の試み～静岡市三保地区の小学校の事例に関して～
○小佐野博史（東海大学大学院人間環境学研究科）・
藤野裕弘（東海大学現代教養センター）・日比慶久
- P-3 会津メダカから見る遺伝的攪乱に関する研究
○矢澤敦・松木大知（福島県立葵高等学校）
- P-4 ピコスコープを使用した水質測定法の開発に関する研究
○矢澤敦・安藤拓翔・佐藤丞悟・秋山玄徳・大槻柊太郎・森口春輝（福島県立葵高等学校）
- P-5 国産小麦「ゆめちから」の耐塩性に関する研究
○矢澤敦・小野寺孝久（福島県立葵高等学校）
- P-6 中国の種類別自動車保有量と大気汚染物質排出量の関連性
朱美華（アジア大気汚染研究センター）

<自主企画セッション> 2日目 13：15～15：15

<A会場：201教室>

- K-1 南アジアにおけるヒ素等地下水汚染問題と国際協力
代表：吉田充夫（（一社）国際環境協力ネットワーク）

<B会場：202教室> ※13：15～14：35

- K-2 若手発表セッション
代表：知足章宏（日本環境学会企画部，フェリス女学院大学国際交流学部）

<D会場：2号館ラウンジ>

- K-3 環境リスクを可視化する市民科学の事例紹介と「市民科学事始め」ワークショップ
代表：小堀洋美（東京都市大学環境学部，（一社）生物多様性アカデミー）